

**倒産集計****信用交換所京都本社**

09年12月繊維倒産

**件数は大幅に減少するも、先行き不透明続く**

全 国 発生件数 = 26件 負債額 = 34億3200万円

2009年(平成21年)12月の全国繊維業者の倒産(負債額1000万円以上=整理・内整理含む)の発生件数は26件。前月比で21件(44.7%)、前年同月比で20件(43.5%)減少し、単月としては平成に入って最低水準となった。

負債額は34億3200万円で、前月比で137億7800万円(80.1%)、前年同月比で131億9700万円(79.4%)減少した。負債額10億円はもとより、同5億円を超える倒産も(株)カズ、ニジュウイチ(東京都台東区、婦人ニットウエア縫製、負債額5億5600万円)の1件にとどまり、極めて落ち着いた状況となった。

12月は資金需要が高まる時期であり、倒産増加が懸念されたが、「中小企業金融円滑化法」施行や緊急保証制度の拡充等が一定の効果がもたらし、倒産発生を抑制したものと見られる。

しかし、足元の経営環境に明るい兆しは感じられない。11月の完全失業率が4ヵ月ぶりに悪化するなど雇用不安が改善されない中、家計収支の悪化による消費マインドの冷え込みは深刻で、百貨店やスーパーの売り上げが前年割れを続けている現状を見ても、衣料品に対する節約志向が顕著に表れている。加えて、消費者の購買意欲の減退を引き金にした物価の下落や価格競争の激化などが収益を圧迫している。

こうした厳しい経営環境のもと、新商品の開発や生産体制の強化などで対応する先がある一方で、特に中小零細業者においてはコスト削減やリスクで最悪の事態を回避するのが精一杯の先が少なくない。

当月は倒産が大幅に減少したとは言え、景気の好転材料は見当たらず、むしろ個人消費の低迷やデフレ進行の長期化で企業収益がさらに悪化する恐れや、各種政策の効果が息切れし倒産が増加に転じることなどが懸念される。水面下では動向に極めて強い関心が寄せられている企業が散見されることから、年明け以降の商況如何では行き詰まる先が出てくる可能性は十分にあり、冬物決済が集中する年度末にかけて警戒を緩めるわけにはいかない。

業種別では、「小売商」12件、「呉服・和装製品製造卸」4件、「紳士・婦人・子供・被服製造卸」「ニット製品・洋品雑貨製造卸」各3件、「その他」2件、「染色整理・特殊加工」「織物製造」各1件。

原因別では、「業績ギリ貧」が21件で全体の8割を占め、以下は「業況急変」2件、「放漫経営」「過剰投資」「資金力薄弱」各1件だった。

京 都 発生件数 = 3件(前年同月3件) 負債額 = 3億7500万円  
(前年同月3億300万円)滋 賀 発生件数 = 0件(前年同月1件) 負債額 = 0万円  
(前年同月1700万円)